

歴史は未来の羅針盤



これまでに刊行しました『近江日野の歴史』は、第一巻「自然・古代編」、第二巻「中世編」、第三巻「近世編」、第四巻「近現代編」、第五巻「文化財編」、第六巻「民俗編」、第七巻「日野商人編」、第八巻「史料編」となりました。教育委員会や各公民館において、一冊四千円で好評販売中です。ぜひ、お買い求めください。

『近江日野の歴史』第四巻「近現代編」を発売して以来、近現代の日野の姿を様々な視点から紹介しています。今回は、その中から近代の学校について紹介します。

学校教育のはじまり

明治5（1872）年、学制が發布され、近代教育が始まりました。日野町内では、明治6年から段階的に学校が設立され、明治十年代には20校ほどありました。その後明治19年から小学校には尋常科・高等科が設けられ、修業年限は各4年と定められました。

この頃の子どもたちは、どのような場所で学んでいたのか、学校の校舎についていくつか紹介しましょう。

明治初年の学校建築

明治初期に設立された学校は、当初は専用の校舎を持っていませんでしたが、従来の建物を転用し



▲明治後期の西大路尋常高等小学校の卒業写真（後ろが当時の校舎、現在は林光院に移築）

したり、校舎を建設して整備が進められていきます。

明治6年、西大路村に設立された朝陽学校は、学校設立当初から西大路藩庁の建物を学校として使用するため払い下げを滋賀県に申請します。しかし当初は認められませんでしたので、光延寺の本堂を仮校舎として開校しました。その後何度か建物の払い下げを申請し、ようやく明治7年11月に建

物の一部払い下げを受けて、校舎として使用することになりました。

写真に写っている大きな屋根の建物は、朝陽学校当時から使用されていた、西大路尋常高等小学校の校舎です。これは校舎が新築される大正の初めまで使用されましたが、現在は京都の相国寺林光院に移築されています。

また、上駒月に設立された調和学校の校舎は、棟札などの記録から、明治14年に建てられたことがわかっています。玄関の鬼瓦には「調和」の文字があり、木造平屋建ての建物、昭和9（1934）年まで、比都佐尋常高等小学校上駒月分教場として使用されてきました。分教場としての役目を終えた後、昭和13年に改築されましたが、間取りなどは分教場として使用されていた時と変わっていません。現在上駒月の会議所として使用されていますが、この建物から明治期の学校の面影を知ることができます。

昭和の学校建築

昭和に入ると、木造2階建ての校舎が建てられるようになります。東桜谷村や鎌掛村などの学校で外観を明るくした、モダンな校舎が建てられました。町内では、旧鎌掛小学校の校舎が現存しています。同様の校舎は、昭和初期に各地で建設されました。近年は近代建築として注目され、ドラマなどのロケ地としても活用されています。

町村合併60周年記念事業

『近江日野の歴史』完成! 明日につなげる集い

今月刊行の第9巻絵図・要覧編をもって、『近江日野の歴史』の刊行が完了します。それを記念しまして、パネルトークを開催いたします。

【日時】 1月25日（日）14:00～

【場所】 わたむきホール虹ふれあいホール（小ホール）
詳しくは、後日配布いたしますチラシをご覧ください